

(A小学校)校内研究プラン 【記入例】

学校教育目標 自ら学び、心豊かにたくましく生きようとする子どもの育成	児童生徒の実態 ・真面目で一生涯命に何事にも取り組むことができる。 ・周りの友達に影響されやすい傾向が見られる。
---------------------------------------	--

目指す児童生徒の姿

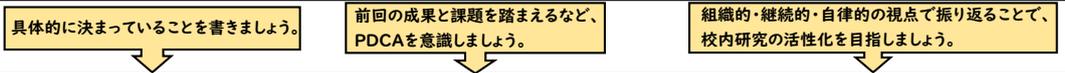
・めあてをもって学習する姿 ・書くことが好きな姿 ・よく考えて説明できる姿 ・自分から学ぼうとする姿

校内研究の主題

「わかる・できる・楽しい」が実感できる授業を目指して～子どもの意識の流れと手立てを大切にしたいみんなでつくる授業～

重点的に育成を目指す資質・能力

算数科における知識・理解の確実な定着



月	校内全体の取組	研究主題に基づいた校内研究・校内研修の内容	研究・研修の目的	成果と課題
4月	☆基礎学力向上のために、学びづくり部の提案で「音読漢字」「マス計算」を火曜日の朝に15分間で行う。	14日(水) 校内研究会① ・今年度の校内研究に関する方向と具体的な取組について 26日(月) 授業づくり委員会 ・授業プランシート作成	・校内研究のねらいが分かる。 ・具体的な「読み解く力」を意識した授業のつくり方について共有する。	○昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、児童の実態や目指す児童の姿を具体的に挙げながら、全ての教員で授業づくりについてイメージすることができた。 ○「読み解く力」を発揮する場面がたくさん見られる授業を考えることを、全ての教員で共有することができた。
5月	☆「学びづくり部」が中心となって、掲示板等の環境を整える。 ⇒量の大きさを実感できる掲示物や展示物を作成する。	26日(水) 校内研究会② 2年「長さをつかってみよう」 17日(月) 授業づくり委員会 指導案検討 21日(金) 2年3組事前授業 24日(月) 2年2組事前授業	・校内研究の具体的な内容が分かる。 ・学んだことを全ての教員で共有し、自分たちの学年ですぐに取り組めることをイメージする。	○単元を通して、学びの足跡の掲示の有効性 ○「児童が量(長さ・広さ・重さなど)についての感覚を豊かにするための環境を整えることが必要だ」と全ての教員で共有できた。 ▲「教師が指導するところ」と「児童が考える」ところに曖昧さが残った。 ▲交流の仕方にもう少し工夫ができるとよかった。
6月	具体的な取組と、その目的を整理します。期間や学年等を細かく記載してもよいですね。	16日(水) 校内研究会③ 「いっしょにあそぼう」2年、3年生活単元 「わたしは何でしょう」5年、6年生活単元 「こんなときどうする」1年、2年自立活動	・子どもの姿からどのような指導や支援をするよいかを学ぶ。 ・「授業アップデートシート」を基にそれぞれの先生方が自分の見方で学ぶ。	○それぞれの先生方が「授業アップデートシート」を記入し、自分のこととして授業の振り返りを行うことができた。 ○それぞれの先生方が感じたこと、学んだことをゆったりとグループで話し合うことができた。 ▲「授業アップデートシート」の活用についての意図を上手く伝えることができなかった。
7月		21日(月) 授業づくり委員会 指導案検討 ・4年「角の大きさ」〈図形〉 ・5年「小数のわり算」〈数と計算〉 ・6年「対称な図形」〈図形〉		
夏休み		20日(火) 授業づくり委員会 授業プランシート作成 ・4年「計算のきまり」〈数と計算〉 ・6年「およその面積」〈図形〉		
8月	☆全国学力・学習状況調査の分析を行い、普段の授業で大切にしたい内容を「学びづくり部」の資料として配付する。	1学期の取組の検証・2学期以降更新すること ・「授業アップデートシート」の書き方の丁寧な説明と活用について(自主的に学ぶことのできるサポート) ・各分掌と連携しながら今必要な組織力を高める取組を協力しながら考える。(特にICT活用について)	・1学期の取組から見えてきたA小で大切にしたいことから2学期以降のA小学校で大切にしたいことの明らかにする。 ・全校公開授業の授業作成(2学年分)	▲「課題の認識、共有、解決」と普段の授業のように、丁寧に進めていく必要がある。 ▲本時の内容を考える時に、授業づくりシートをしっかりと作る必要がある。目指す子どもの姿が明確でないかぎり、どうしても本質ではないところの議論になってしまうのはもったいないと思った。 ▲次回の研究会では、「できる・わかる・楽しい」を実感している子どもの姿で語ることで研究会にしたい。
9月	☆Microsoft Teamsを活用した研究会の練習をOJTの時間を使って行う。	29日(水) 授業研究会③ 4年2組「計算のきまり」	・緊急事態宣言の中の安全な校内研究会の在り方を探る。 ・ICTを様々な面で導入する。 ・子どもの姿の変容を語る研究会を実現する。	○Microsoft Teamsを使った研究会を通して、教員のICT活用への意識が高まったように感じる。 ○授業でもICTを活用してもらえることとなり、移動して交流できない場面での有効な交流方法を全員で学ぶことができた。 ○それぞれの子どもの姿から学んだことと、それぞれのグループから普段の授業で実践したい具体的な内容を発信してもらったことができた。 ▲授業で実践したい内容を具体的に発信していただいたが、本当に実践できるかは曖昧なまま終わってしまった。
10月		6日(水) 少人数指導 3年1組「わり算や分数を考えよう」〈数と計算〉 27日(水) 授業研究会④ 6年2組「およその面積や体積」〈図形〉	・少人数の良さや丁寧な支援とは何かを明確にする ・子どもの姿の変容で語る研究会を実現する。 ・今年度の研究の中間のまとめをする。 ・付けたい力を明確にした授業の展開にする。 ・直接参観とICTを使っっての参観を自分で選択ができる先生方の参加しやすい研究会それぞれのアップデートシートの交流とこれからの具体的な自分の学びを体現できるような研究会にする。	○少人数だからこそ子どもの姿の変容がたくさん見ることができた。 ▲授業を見に来ていただいた先生が同じ学年の先生のみで申し訳なかった。 ▲授業作りについて学年と少人数担当の先生に任せている部分があり、何を話し合うと良いのかがぶれてしまった。 ○Microsoft Teamsを活用した研究会をスムーズに行うことができた。 ○授業を参観する方法を、Teamsを活用してタブレットで見る方法と実際に見に行く方法を選択してもらったことで無理なく参観していただくことができた。 ○職員室のタブレットから、事務の先生も参観していただき「たくさんさんの備品がどのように使われているのを見たり、子どもたちの様子を見たりすることができる機会があった」と教えてもらうことができた。